

キヤノンマーケティングジャパン株式会社 2026年度第1四半期 決算説明

2026年4月22日

取締役専務執行役員 蛭川 初巳

- 本資料では、億円単位未満の端数は四捨五入により表示しております。
- 本資料で記述されている業績予想及び将来予測は、現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため、様々な要因の変化により、実際の業績は記述されている将来見通しとは大きく異なる結果となる可能性があることをご承知ください。

皆さま、こんにちは。蛭川でございます。

本日は大変お忙しい中、ご参加いただき、誠にありがとうございます。

■ 決算のポイント	P.3
■ 業績サマリー	P.4
■ 営業利益分析	P.5
■ 業績 セグメント概要	P.6
■ 業績 セグメント情報	P.7～10
■ セグメント別 製品・サービス売上	P.11
■ 業績予想サマリー	P.12
■ 業績予想 セグメント概要	P.13～14
■ 業績予想 セグメント情報	P.15～18
■ 主要製品売上・台数	P.19～20
■ 財務指標推移	P.21
■ 参考資料	P.23～35

それでは、2026年第1四半期決算と業績予想についてご説明致します。

このアジェンダに沿って説明を進めてまいります。

2026年12月期 第1四半期 業績概要

- ・対前年 増収・増益。
- ・営業利益、経常利益、純利益は第1四半期の過去最高を更新。
- ・営業利益率、経常利益率は四半期の過去最高を更新。
- ・売上・利益ともに計画以上に進捗。

2026年12月期 業績見通し

- ・前回計画から修正なし。6期連続の増収増益を目指す。

トピックス

- ・3月4日 IR Dayを初開催。
〈資料掲載先〉キヤノンマーケティングジャパン 投資家向け情報サイト
<https://corporate.jp.canon/ir/library/business-briefing>

3ページ目は、決算のポイントです。

1Qは、対前年で増収、増益となりました。
営業利益、経常利益、純利益は、1Qの過去最高を更新し、
営業利益率、経常利益率は、四半期での過去最高を更新することができました。
Windows10の延長サポート終了に伴うビジネスPCの入替需要の反動減がありましたが、
高付加価値なセキュリティやSI案件等が増加し、売上・利益ともに計画以上の進捗となりました。

年間の見通しについては、前回計画から修正しておりません。
6期連続の増収増益を目指します。

続いて、1Qのトピックスです。
3月4日にIR Dayを当社としては初めて開催しました。
当日の資料等は当社WEBサイトに掲載しておりますので、ご確認いただければ幸いです。
IR Dayにてお伝えした各セグメントの戦略を着実に実行しており、1Qの実績にもつながりました。

業績サマリー 第1四半期(1月～3月)

- ✓ 営業利益、経常利益、純利益は第1四半期の過去最高を更新
- ✓ 営業利益率、経常利益率は四半期の過去最高を更新

(単位：億円)

	2025年 1Q	2026年 1Q	前年同期比較	
			金額	率
売上高	1,673	1,717	+43	+3%
売上総利益	516 (30.9%)	555 (32.3%)	+38 (+1.4pt)	+7%
営業利益	132 (7.9%)	185 (10.8%)	+54 (+2.9pt)	+41%
経常利益	132 (7.9%)	186 (10.8%)	+54 (+2.9pt)	+41%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	88 (5.3%)	128 (7.5%)	+40 (+2.2pt)	+45%

4ページ目は、1Qの業績サマリーです。

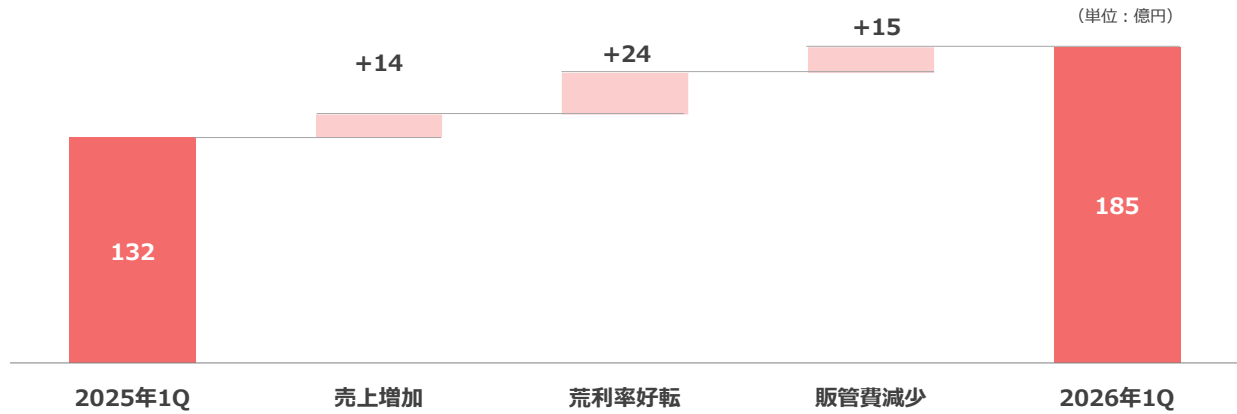
1Qは対前年で増収増益となり、
営業利益、経常利益、純利益は、第1四半期の過去最高を更新しました。
また、営業利益率、経常利益率については、四半期の過去最高を更新しました。

売上は、「ITソリューション」、「キヤノン製品他」がともに堅調に推移したことにより、
対前年3%増の1,717億円となりました。

営業利益は、売上増加に伴う荒利の増加等により、対前年54億円増の185億円となりました。

親会社株主に帰属する四半期純利益は、対前年40億円増の128億円となりました。

営業利益分析 第1四半期(1月～3月)



荒利率好転

- 全てのセグメントにおいて荒利率が好転

販管費減少

- 人件費 ▲13億円
- のれん等償却費 ▲2億円

※販管費の詳細についてはP.25をご参照ください。

5ページ目は、1Qの営業利益分析です。

売上の増加に伴い荒利が14億円増加しております。

荒利率については、主にエンタープライズセグメント、エリアセグメントで高付加価値な商品やサービスの構成比が高まったこと等により、荒利率が好転しております。

キヤノン製品事業については、オフィスMFPにおいて販売台数の増加と販売単価の向上を両立させることができました。

また、ITソリューション事業については、Windows10の延長サポート終了に伴うビジネスPCの入替需要の反動減により荒利率の低い商品の構成比が低下する一方で、SIやセキュリティ、ネットワークカメラなどの高付加価値なビジネスが拡大致しました。引き続き、お客さまの課題を的確に捉えた提案を実行してまいります。

販管費については、人件費やのれん等償却費が減少したこと等により、15億円減少しております。

なお、1Qの販管費の詳細は25ページの「販管費の内訳」をご参照ください。

業績 セグメント概要 第1四半期(1月～3月)

(単位：億円)

	2025年 1Q		2026年 1Q		増減	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
エンタープライズ	680	51	697	74	+17	+23
エリア	606	55	606	73	△0	+18
コンシューマ	319	21	321	27	+2	+6
プロフェッショナル	134	12	138	17	+4	+5
その他	△66	△7	△45	△6	+21	+1
合計	1,673	132	1,717	185	+43	+54

※「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、シェアードサービス事業、セグメント間取引消去を含んでおります。

6ページ目は、1Qのセグメント別の実績概要です。

エリアセグメントで売上は前年同期並み、増益となりましたが、
エンタープライズセグメント、コンシューマセグメント、プロフェッショナルセグメントで増収増益となりました。

セグメントごとの詳細については、この後ご説明致します。

業績 セグメント情報 エンタープライズ

- ✓ 売上高は、「キヤノン製品他」および「ITソリューション」が堅調に推移したことにより、増収
- ✓ 営業利益は、売上増加に伴う荒利の増加に加え、高付加価値な商品やサービスの構成比が高まったことにより、増益

(単位：億円)

	1Q実績 (1-3月)			
	2025年	2026年	対前年	
			金額	率
キヤノン製品他	142	146	+5	+3%
ITソリューション	539	551	+12	+2%
売上高計	680	697	+17	+2%
営業利益	51	74	+23	+44%
利益率	7.5%	10.5%	+3.1pt	-

■ (ご参考) 主要関係会社実績 キヤノンITソリューションズ

	1Q実績		増減率
	2025年	2026年	
売上高	408	410	+1%
営業利益	43	53	+24%

キヤノンITソリューションズ受注高・受注残高 (対前年伸び率)

	1Q実績
受注高	+8%
受注残高	△9%

データセンター事業以外の
1Qの受注残高は
対前年+3%

※2025年7月より、T C S株式会社をキヤノンITソリューションズへ合併したことに伴い、キヤノンITソリューションズの2025年実績を組織しております。

7ページ目は、エンタープライズセグメントのご説明です。

1Qの売上は、「キヤノン製品他」および「ITソリューション」が堅調に推移したことにより、対前年3%増の697億円となりました。

営業利益は、売上増加に伴う荒利の増加に加え、高付加価値な商品やサービスの構成比が高まったことによる荒利率の向上により、対前年23億円増の74億円となりました。

(キヤノン製品他)

「キヤノン製品他」については、オフィスにおけるペーパーレス化の影響が続いていること等により、レーザープリンターの台数は減少しました。市場は縮小しているものの、オフィスMFPについては、提案活動を積極的に進めたことにより、複数の大型案件があり、台数は大幅に増加しました。レーザープリンターカートリッジについては、大口の受注があり売上は増加し、オフィスMFPの保守サービスについては、本体稼働台数の増加およびカラー出力比率が高まったことにより、売上は増加しました。これらの結果、「キヤノン製品他」全体の売上は対前年3%増となりました。

(ITソリューション)

「ITソリューション」については、Windows10の延長サポート終了に伴うビジネスPCの入替需要の反動減があったものの、製造業向けのSI案件が順調に推移したことや、公共向け映像クラウドAI案件があったこと等により、対前年2%増となりました。

業績 セグメント情報 エンタープライズ

- ✓ 売上高は、「キヤノン製品他」および「ITソリューション」が堅調に推移したことにより、増収
- ✓ 営業利益は、売上増加に伴う荒利の増加に加え、高付加価値な商品やサービスの構成比が高まったことにより、増益

(単位：億円)

	1Q実績 (1-3月)			
	2025年	2026年	対前年	
			金額	率
キヤノン製品他	142	146	+5	+3%
ITソリューション	539	551	+12	+2%
売上高計	680	697	+17	+2%
営業利益	51	74	+23	+44%
利益率	7.5%	10.5%	+3.1pt	-

■ (ご参考) 主要関係会社実績 キヤノンITソリューションズ

	1Q実績		増減率
	2025年	2026年	
売上高	408	410	+1%
営業利益	43	53	+24%

キヤノンITソリューションズ受注高・受注残高 (対前年伸び率)

	1Q実績
受注高	+8%
受注残高	△9%

データセンター事業以外の1Qの受注残高は対前年+3%

※2025年7月より、T C S 株式会社をキヤノンITソリューションズへ合併したことに伴い、キヤノンITソリューションズの2025年実績を組替えております。

【キヤノンITソリューションズ実績／受注高・受注残高】

2025年7月にT C SをキヤノンITソリューションズへ合併したことに伴い、比較対象となる前年の1Q実績を組み替えております。

主要関係会社のキヤノンITソリューションズの売上は、対前年1%増の410億円となりました。なお、前年同期にキヤノンMJグループ向けPC案件がありその剥落分を除くと8%増となっております。営業利益は、売上増加に伴う荒利の増加に加え、高付加価値な商品やサービスの構成比が高まったことや、不採算案件の安定化に伴う荒利率の向上により、対前年10億円増の53億円となりました。

受注高は、製造業向けSI案件が好調に推移したことや、文教向けIT基盤案件があったことにより、対前年8%増となりました。

また、受注残高については、文教向けの大型IT基盤案件や、製造業向けおよび金融業向けSI案件を獲得したものの、前年同期に公共向け映像クラウドAI案件があり、その剥落や、大型のデータセンター案件の売上への切替等により、対前年9%減となりました。なお、データセンター事業以外の受注残高は対前年3%増となりました。

【プリマジェストの状況】

プリマジェストについては、ビジネスが順調に成長し、売上が拡大しています。また、グループ入り前から見込んでいたシナジーが発現し、1Qにおいても、金融業のお客さままで新規の案件を受注しました。

業績 セグメント情報 エリア

- ✓ 売上高は、「ITソリューション」が堅調に推移したものの、「キヤノン製品他」が減少したことにより、前年同期並み
- ✓ 営業利益は、高付加価値な商品やサービスの構成比が高まったことによる荒利率の向上により、増益

(単位：億円)

	1Q実績 (1-3月)			
	2025年	2026年	対前年	
			金額	率
キヤノン製品他	392	387	△5	△1%
ITソリューション	214	218	+5	+2%
売上高計	606	606	△0	△0%
営業利益	55	73	+18	+34%
利益率	9.1%	12.1%	+3.0pt	-

■ (ご参考) 主要関係会社実績

キヤノンシステムアンドサポート

	1Q実績		増減率
	2025年	2026年	
売上高	291	302	+4%
営業利益	26	36	+37%

8ページ目は、エリアセグメントのご説明です。

1Qの売上は、「ITソリューション」が堅調に推移したものの、「キヤノン製品他」が減少したことにより、前年同期並みの606億円となりました。

営業利益は、高付加価値な商品やサービスの構成比が高まったことによる荒利率の向上により、対前年18億円増の73億円となりました。

(キヤノン製品他)

「キヤノン製品他」については、オフィスにおけるペーパーレス化の影響が続いていること等により、レーザープリンターの台数およびレーザープリンターカートリッジの売上は減少しました。

市場は縮小しているものの、オフィスMFPについては、使用期間が長期化しているお客さまの機器の入替やお客さまの業務効率向上に向けた提案活動を積極的に進めたことにより、台数は微増となり、オフィスMFPの保守サービスの売上は微減に留めました。

(ITソリューション)

「ITソリューション」については、Windows10の延長サポート終了に伴うビジネスPCの入替需要の反動減があったものの、ランサムウェア対策ソフト等のセキュリティが好調に推移したことや、中小企業のサステナブル経営・DX推進をトータルで支援する「まかせてIT」の契約件数が増加したことにより、売上は対前年2%増となりました。

【キヤノンシステムアンドサポート実績】

主要関係会社のキヤノンシステムアンドサポートの売上は、対前年4%増の302億円となりました。

営業利益は、売上増加に伴う荒利の増加により、対前年10億円増の36億円となりました。

なお、営業利益率は、付加価値の高いセキュリティや「まかせてIT」を中心としたリカーリングビジネスが順調に推移していること等により向上しています。

キヤノンシステムアンドサポートは、これまで「まかせてIT DXシリーズ」を通じて中小企業の経営者の課題に寄り添い、ITの選定から運用・保守まで一貫して支援してきました。

昨年からは、経営課題の解決を支援する「まかせてIT BXシリーズ」へと領域をさらに拡大しています。

また、昨今のサイバー攻撃の高度化を背景に、セキュリティはITの課題にとどまらず、経営課題へとその位置づけが高まっています。

経済産業省が推進する「サプライチェーン強化に向けたセキュリティ対策評価制度」の開始に向けた整備が進む中、当社は現状分析からルール整備・専門家の評価まで、取得へ向けて一貫してサポートし、お客さまの経営課題解決を継続的に支援してまいります。

業績 セグメント情報 コンシューマ

- ✓ 売上高は、ITプロダクトが減少したものの、レンズ交換式カメラやコンパクトカメラが増加したこと等により、増収
 - ✓ 営業利益は、売上増加に伴う荒利の増加に加え、高付加価値な商品の構成比が高まったことにより、増益
- (単位：億円)

	1Q実績 (1-3月)			
	2025年	2026年	対前年	
			金額	率
キヤノン製品他	214	220	+6	+3%
ITソリューション	104	100	△4	△4%
売上高計	319	321	+2	+1%
営業利益	21	27	+6	+31%
利益率	6.5%	8.5%	+2.0pt	-

■コンシューマ製品 (対前年伸び率)

		1Q実績
レンズ交換式カメラ	(台数)	+18%
インクジェットプリンター	(台数)	△7%
インクジェットプリンターカートリッジ	(金額)	△3%

9ページ目は、コンシューマセグメントのご説明です。

1Qの売上は、ITプロダクト等が減少したものの、レンズ交換式カメラやコンパクトカメラが増加したこと等により、対前年1%増の321億円となりました。

営業利益は、売上増加に伴う荒利の増加に加え、高付加価値な商品の構成比が高まったことによる荒利率の向上により、対前年6億円増の27億円となりました。

(レンズ交換式カメラ)

レンズ交換式カメラについては、昨年発売した「EOS R6 Mark III」等が増加したことに加え、エントリークラスが順調だったこと等により、台数は対前年18%増となりました。

交換レンズについては、低単価製品の売上構成比が高まったことにより、売上は減少したものの、販売本数は増加しました。

(インクジェットプリンター)

インクジェットプリンターについては、市場の縮小等により、台数は対前年7%減となりました
インクカートリッジについては、プリントボリュームの減少等により、売上は減少しました。

(ITプロダクト)

ITプロダクトについては、メモリの価格高騰への懸念から、ポータブルSSDに駆け込み需要があり販売が好調に推移したものの、前年同期にWindows 10の延長サポート終了に伴う需要等により高性能PCの販売が好調に推移し、その反動により、売上は減少しました。

業績 セグメント情報 プロフェッショナル

- ✓ 売上高は、ヘルスケアは減収となったものの、プロダクションプリンティングと産業機器が増収となり、増収
- ✓ 営業利益は、売上増加に伴う荒利の増加等により、増益 (単位: 億円)

	1Q実績 (1-3月)			
	2025年	2026年	対前年	
			金額	率
プロダクションプリンティング	22	24	+2	+12%
産業機器	35	38	+3	+9%
ヘルスケア	77	76	△1	△2%
売上高計	134	138	+4	+3%
営業利益	12	17	+5	+40%
利益率	9.1%	12.3%	+3.2pt	-

■ (ご参考) 主要関係会社実績
キヤノンプロダクションプリンティングシステムズ

	1Q実績		増減率
	2025年	2026年	
売上高	21	23	+12%
営業利益	1	2	+133%

10ページ目は、プロフェッショナルセグメントのご説明です。

1Qの売上は、ヘルスケアは減収となったものの、プロダクションプリンティングと産業機器が増収となり、対前年3%増の138億円となりました。
営業利益は、売上増加に伴う荒利の増加等により、対前年5億円増の17億円となりました。

(プロダクションプリンティング)

プロダクションプリンティングについては、高速カット紙プリンター案件の増加等により、売上は対前年12%増となりました。

【キヤノンプロダクションプリンティングシステムズ実績】

主要関係会社のキヤノンプロダクションプリンティングシステムズの売上は、対前年12%増の23億円となりました。
営業利益は、売上増加に伴う荒利の増加により、対前年1億円増の2億円となりました。

(産業機器)

産業機器については、半導体関連の検査・計測装置で複数の案件があったこと等により、売上は対前年9%増となりました。

(ヘルスケア)

ヘルスケアについては、複数の病院向け案件があったものの、診療所向け案件が減少したことにより、売上は対前年2%減となりました。

セグメント別 製品・サービス売上 第1四半期(1月～3月)

	エンタープライズ		エリア		コンスーマ		プロフェッショナル		その他		合計		構成比 2026年 1Q
	2025年 1Q	2026年 1Q	2025年 1Q	2026年 1Q	2025年 1Q	2026年 1Q	2025年 1Q	2026年 1Q	2025年 1Q	2026年 1Q	2025年 1Q	2026年 1Q	
SI・ソリューション (対前年)	177	192 +8%	21	24 +17%	-	-	78	76 △2%	△1	△3 -	275	289 +5%	31%
サービス・ アウトソーシング (対前年)	202	210 +4%	48	51 +7%	-	-	4	4 +4%	△6	△5 -	248	260 +5%	28%
ITプロダクト・システム構築 (対前年)	159	149 △6%	145	143 △1%	104	100 △4%	-	-	△31	△8 -	378	384 +2%	41%
ITソリューション合計 (対前年)	539	551 +2%	214	218 +2%	104	100 △4%	81	80 △2%	△37	△16 -	901	933 +4%	100%
キヤノン製品他 (対前年)	142	146 +3%	392	387 △1%	214	220 +3%	53	58 +11%	△29	△29 -	772	783 +1%	
合計 (対前年)	680	697 +3%	606	606 △0%	319	321 +1%	134	138 +3%	△66	△45 -	1,673	1,717 +3%	

※「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、シェアードサービス事業、セグメント間取引消去を含んでおります。
 ※2026年1月より、ITソリューションにおける3区分の名称を「SIサービス」「保守・運用サービス/アウトソーシング」「ITプロダクト・システム販売」から、「SI・ソリューション」「サービス・アウトソーシング」「ITプロダクト・システム構築」に変更し、集計基準を変更しました。これに伴い、2025年実績を組替えております。

11ページ目は、セグメント別 製品・サービスの売上です。
 ここでは、ITソリューションの1Qの実績についてご説明します。

まずは、「SI・ソリューション」です。
 エンタープライズセグメントにおいて、製造業向けSI案件等が好調に推移したことに加え、
 エリアセグメントにおいて、ソフトウェアのサポート終了に伴う入替提案の活発化により、
 基幹業務ソフトの販売が好調に推移したこと等により、対前年5%増となりました。

次に、「サービス・アウトソーシング」です。
 エンタープライズセグメントにおいて、プリマジェストで金融業向けが好調に推移したことや、
 キヤノンITソリューションズでクラウドセキュリティサービスが好調に推移したことにより、対前年5%増となりました。

次に、「ITプロダクト・システム構築」です。
 エンタープライズセグメント、エリアセグメント、コンスーマセグメントでWindows10サポート終了に伴う
 ビジネスPCの入替需要の反動減により、PCの売上は当初の想定通り20億円強 減少しました。
 また、エンタープライズセグメントで前年同期にキヤノンMJグループ向けのPCの案件があり、その剥落がありました。
 一方で、エンタープライズセグメントで文教向けのIT基盤案件があったことや、エリアセグメントで、
 ランサムウェア対策ソフト等のセキュリティが好調に推移しました。
 「その他」における前年実績にグループ内取引が含まれており、その改善により、
 「ITプロダクト・システム構築」全体の売上は対前年2%増となりました。

これらの結果、グループITソリューション全体の売上は、対前年4%増となりました。

業績予想サマリー

(単位：億円)

	2026年 年間 前回予想	2026年 年間 今回予想	増減		2025年 年間 実績	増減	
			金額	率		金額	率
売上高	6,850	6,850	-	-	6,798	+52	+1%
営業利益	600 (8.8%)	600 (8.8%)	-	-	582 (8.6%)	+18 (+0.2pt)	+3%
経常利益	607 (8.9%)	607 (8.9%)	-	-	598 (8.8%)	+9 (+0.1pt)	+1%
親会社株主に帰属する 当期純利益	420 (6.1%)	420 (6.1%)	-	-	415 (6.1%)	+5 (+0.0pt)	+1%

12ページ目は、業績予想サマリーです。

1Qは増収・増益となり、順調なスタートを切ることができました。
2Q以降からの案件の前倒しもあり、売上・利益ともに計画を上回る進捗となっています。

外部環境に目を向けますと、メモリの供給ひっ迫や価格高騰の影響に加え、
中東情勢を背景とした資源価格の高騰によるコストや仕入価格の上昇、
さらにはそれらに伴うお客さまの投資抑制等、さまざまなリスクが想定されます。

当社グループでは、
Windows10サポート終了に伴うビジネスPCの入替需要の反動減等が想定されることや、
新しいビジネス創出に向けた研究費・開発費等の事業投資、
4月からの賃上げや教育費用等の人材投資、ビジネスプロセス改革のためのIT・設備投資等の
将来の成長に向けた投資費用の増加を見込んでいる状況です。

一方で、引き続き労働人口が減少する中、ITを活用した生産性向上のニーズや
サイバーとフィジカル両面でのセキュリティのニーズは益々高まっている状態にあります。
当社グループは、こうしたニーズに対して積極的な提案を行うことで、
ITソリューション事業の収益性向上を伴った売上拡大を図るとともに、
キヤノン製品事業のさらなる収益性強化を図ってまいります。

このような状況を踏まえ、年間の予想は前回公表値から変更しておりません。

業績予想 セグメント概要 前年比較

(単位：億円)

	2025年 年間 実績		2026年 年間 予想		前年比較			
	売上	営業利益	売上	営業利益	売上		営業利益	
					金額	率	金額	率
エンタープライズ	2,658	211	2,754	224	+96	+4%	+13	+6%
エリア	2,403	223	2,355	223	△48	△2%	-	-
コンシューマ	1,448	130	1,426	130	△22	△2%	-	-
プロフェッショナル	488	55	490	50	+2	+0%	△5	△10%
その他	△198	△38	△175	△27	+23	-	+11	-
合計	6,798	582	6,850	600	+52	+1%	+18	+3%

※「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、シェアードサービス事業、セグメント間取引消去を含んでおります。

13ページ目は、セグメント別業績予想の前年比較です。

売上は、エリアセグメントとコンシューマセグメントで減収となりますが、エンタープライズセグメントとプロフェッショナルセグメントで増収となる見込みです。

営業利益については、プロフェッショナルセグメントで減益となりますが、エリアセグメント、コンシューマセグメントで前年並み、エンタープライズセグメントで増益となる見込みです。

セグメントごとの詳細については、この後ご説明致します。

業績予想 セグメント概要

	2025年				2026年				増減			
	1Q (実績)		2Q-4Q (実績)		1Q (実績)		2Q-4Q (計画)		1Q		2Q-4Q	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
エンタープライズ	680	51	1,977	160	697	74	2,057	150	+17	+23	+80	△9
エリア	606	55	1,797	168	606	73	1,749	150	△0	+18	△47	△19
コンシューマ	319	21	1,129	109	321	27	1,105	103	+2	+6	△24	△7
プロフェッショナル	134	12	354	43	138	17	352	33	+4	+5	△3	△10
その他	△66	△7	△133	△31	△45	△6	△130	△21	+21	+1	+3	+10
合計	1,673	132	5,125	450	1,717	185	5,133	415	+43	+54	+9	△35

※「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、シェアードサービス事業、セグメント間取引消去を含んでおります。

14ページ目は、セグメント別の1Qの実績と2Q以降の業績予想に対する前年比較です。

■ エンタープライズ

- ✓ 売上高は、「ITソリューション」が順調に推移することにより、増収を見込む
- ✓ 営業利益は、販管費の増加により、減益を見込む

(単位：億円)

	1Q (実績)				2Q-4Q (計画)			
	2025年	2026年	対前年		2025年	2026年	対前年	
			金額	率			金額	率
売上高	680	697	+17	+2%	1,977	2,057	+80	+4%
営業利益	51	74	+23	+44%	160	150	△9	△6%
利益率	7.5%	10.5%	+3.1pt	-	8.1%	7.3%	△0.8pt	-

15ページ目からは、業績予想をセグメントごとに説明致します。

まずは、エンタープライズセグメントです。
2Q以降は、増収減益を見込んでおります。

売上は、対前年4%増の2,057億円を見込んでおります。
営業利益は、商談活動の活発化に伴う物流費や、新規案件獲得のためのSE費用、新しいビジネス創出に向けた研究費および開発費等の販管費の増加により、対前年9億円減の150億円を見込んでおります。

「キヤノン製品他」については、
レーザープリンターの台数は複数の大型案件により大幅に増加することに加え、
オフィスMFPの保守サービスは本体稼働台数の増加に伴い微増となる見込みです。
一方、オフィスにおけるペーパーレス化の影響が継続することで、
オフィスMFPの台数およびレーザープリンターカートリッジの売上は減少する見込みです。
これらの結果、「キヤノン製品他」の売上は減少する見込みですが、
引き続きお客さまの業務プロセス改善に寄与する、積極的な提案を継続してまいります。

「ITソリューション」については、
キヤノンITソリューションズにおいて金融業向けおよび製造業向けのSI案件が好調に推移することに加え、
キヤノンマーケティングジャパンおよびプリマジェストにおいてBPOが堅調に推移することや、
キヤノンマーケティングジャパンにおいて映像ソリューションが好調に推移すること等により、
売上は増加する見込みです。

■ エリア

- ✓ 売上高は、「キヤノン製品他」が微減することに加え、「ITソリューション」が減少することにより、減収を見込む
- ✓ 営業利益は、売上減少に伴う荒利の減少に加え、販管費の増加により、減益を見込む

(単位：億円)

	1Q (実績)				2Q-4Q (計画)			
	2025年	2026年	対前年		2025年	2026年	対前年	
			金額	率			金額	率
売上高	606	606	△0	△0%	1,797	1,749	△47	△3%
営業利益	55	73	+18	+34%	168	150	△18	△11%
利益率	9.1%	12.1%	+3.0pt	-	9.4%	8.6%	△0.8pt	-

次に、エリアセグメントです。
2Q以降は、減収減益を見込んでおります。

売上は対前年3%減の1,749億円、営業利益は売上減少に伴う荒利の減少に加え、物流費等の販管費の増加により、対前年19億円減の150億円を見込んでおります。

「キヤノン製品他」については、
オフィスにおけるプリントボリュームの減少に伴い、
オフィスMFPの保守サービスやレーザープリンターのカートリッジが減少するものの、
ITソリューションを導入しているお客さまへの積極的な提案活動や、使用期間が長期化している
お客さまの機器の入替促進により、オフィスMFPおよびレーザープリンターの台数は増加する見込みです。
これらの結果、「キヤノン製品他」の売上は微減に留める見込みです。

「ITソリューション」の売上については、
ウイルス対策ソフト「ESET」などのセキュリティや、中小企業のサステナブル経営・DX推進をトータルで
支援する「まかせてIT」等が順調に推移するものの、
Windows 10の延長サポート終了の影響で前年にPCの売上が大幅に増加したことの反動等により、
売上は減少する見込みです。

■ コンスーマ

- ✓ 売上高は、ITプロダクトやインクカートリッジの減少により、減収を見込む
- ✓ 営業利益は、販管費の増加により、減益を見込む

(単位：億円)

	1Q (実績)				2Q-4Q (計画)			
	2025年	2026年	対前年		2025年	2026年	対前年	
			金額	率			金額	率
売上高	319	321	+2	+1%	1,129	1,105	△24	△2%
営業利益	21	27	+6	+31%	109	103	△6	△6%
利益率	6.5%	8.5%	+2.0pt	-	9.7%	9.3%	△0.4pt	-

次に、コンスーマセグメントです。
2Q以降は、減収減益を見込んでおります。

売上は、2%減の1,105億円を見込んでおります。
営業利益は、販売促進費や広告宣伝費等の販管費が増加することにより、
対前年7億円減の103億円を見込んでおります。

レンズ交換式カメラについては、お客さまのニーズにお応えした製品展開を行うことで出荷が増加することや、
ミラーレスカメラへの移行に伴いRFレンズの販売が進むことで、
売上は増加する見込みです。

インクジェットプリンターおよびインクカートリッジについては、市場の縮小により、売上は減少する見込みです。

ITプロダクトについては、
Windows 10の延長サポート終了の影響で前年にPCの売上が大幅に増加したことの反動に加え、
メモリの供給制約に伴いPCの供給が不安定になることや価格上昇による需要減の懸念があり、
売上は減少する見込みです。

■ プロフェッショナル

- ✓ 売上高は、プロダクションプリンティングとヘルスケアは増加するものの、産業機器が減少することにより、減収を見込む
- ✓ 営業利益は、売上減少に伴う荒利の減少により、減益を見込む

(単位：億円)

	1Q (実績)				2Q-4Q (計画)			
	2025年	2026年	対前年		2025年	2026年	対前年	
			金額	率			金額	率
プロダクションプリンティング	22	24	+2	+11%	72	78	+6	+8%
産業機器	35	38	+3	+9%	168	158	△10	△6%
ヘルスケア	77	76	△1	△2%	114	116	+2	+2%
売上高	134	138	+4	+3%	354	352	△3	△1%
営業利益	12	17	+5	+40%	43	33	△10	△24%
利益率	9.1%	12.3%	+3.2pt	-	12.2%	9.4%	△2.8pt	-

次に、プロフェッショナルセグメントです。
2Q以降は、減収減益を見込んでおります。

売上は対前年1%減の352億円を見込んでおります。
営業利益は、産業機器の売上減少に伴う荒利の減少により、対前年10億円減の33億円を見込んでおります。

プロダクションプリンティングについては、高速連帳プリンターおよび高速カット紙プリンター等の拡販を進めることにより、売上は増加する見込みです。

産業機器については、半導体製造関連の検査・計測装置の案件が減少することにより、売上は減少する見込みです。

なお、当社では2026年に計画している案件については概ね受注済みであり、現在は2027年以降に向けて積極的な提案活動を推進しております。

ヘルスケアについては、病院や診療所等に向けた複数の案件のサービスインを予定しており、売上は増加する見込みです。

【補足資料】主要製品売上・台数

■ITソリューション

連結

	(金額)	2025年 対 2024年					2026年 対 2025年		前回公表値
		1Q 実績	2Q 実績	3Q 実績	4Q 実績	年間 実績	1Q 実績	年間 計画	年間 計画
SI・ソリューション	(金額)	+1%	+1%	+4%	+10%	+4%	+5%	+11%	+11%
サービス・アウトソーシング	(金額)	+27%	+8%	+7%	△2%	+9%	+5%	+8%	+8%
ITプロダクト・システム構築	(金額)	+30%	+8%	+14%	+4%	+13%	+2%	△8%	△8%
ネットワークカメラ	(金額)	△0%	+53%	+4%	+7%	+13%	+32%	+15%	+15%

※2026年1月より、ITソリューションにおける3区分の名称を「SIサービス」「保守・運用サービス/アウトソーシング」「ITプロダクト・システム販売」から、「SI・ソリューション」「サービス・アウトソーシング」「ITプロダクト・システム構築」に変更し、集計基準を変更しました。これに伴い、「2026年対2025年」における2025年実績を組替えております。

19ページ目は、補足資料として掲載しております「主要製品売上・台数」表についてご説明致します。今回より、当資料にてご説明しますので、お手元でのご用意は不要となります。

まずは、「ITソリューション」です。

「SI・ソリューション」から「ITプロダクト・システム構築」までの1Qの実績については、「セグメント別 製品・サービス売上」でお伝えしている通りであり、2026年の年間計画については、前回公表値から変更ございません。

1Qのグループトータルの「ネットワークカメラ」は、エンタープライズセグメント、エリアセグメントにおいて、ビデオ管理ソフトウェア「XProtect」や、クラウド録画サービス「VisualStage」シリーズ等が好調に推移したことにより、対前年32%増となりました。2026年の年間計画については、前回公表値から変更ございません。

【補足資料】主要製品売上・台数

■キヤノン製品他

単体（全社）

		2025年 対 2024年					2026年 対 2025年		前回公表値
		1Q 実績	2Q 実績	3Q 実績	4Q 実績	年間 実績	1Q 実績	年間 計画	年間 計画
オフィスMFP レンタル込	(台数)	△3%	+7%	+9%	+6%	+5%	+8%	+4%	+4%
保守サービス	(金額)	△4%	△1%	△1%	△2%	△2%	+0%	△1%	△1%
レーザープリンター	(台数)	+4%	+2%	△1%	△7%	△1%	△4%	+8%	+8%
レーザープリンターカートリッジ	(金額)	△3%	△0%	△1%	△3%	△2%	+0%	△2%	△2%

連結

商業印刷	(金額)	+5%	+10%	+10%	△1%	+6%	+5%	+0%	+0%
------	------	-----	------	------	-----	-----	-----	-----	-----

単体（全社）

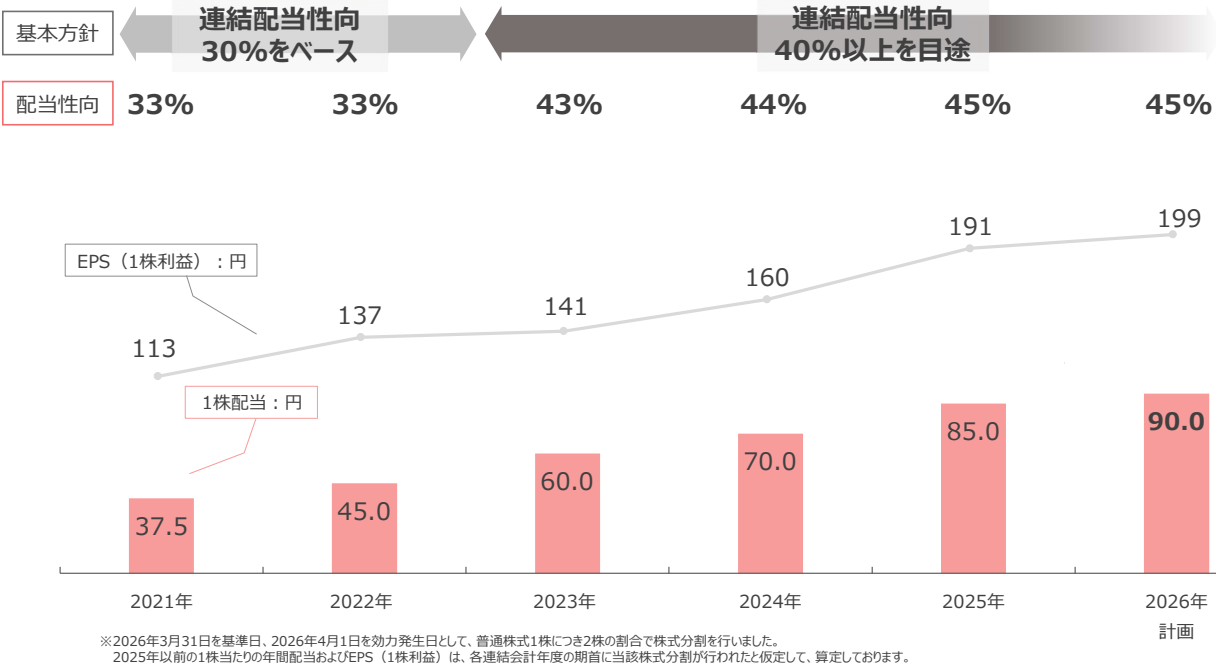
		2025年 対 2024年					2026年 対 2025年		前回公表値
		1Q 実績	2Q 実績	3Q 実績	4Q 実績	年間 実績	1Q 実績	年間 計画	年間 計画
レンズ交換式カメラ	(台数)	△15%	△12%	△25%	+19%	△7%	+18%	+3%	+3%
インクジェットプリンター	(台数)	△14%	△8%	△14%	△0%	△8%	△7%	△4%	△4%
インクジェットプリンターカートリッジ	(金額)	△7%	△7%	△5%	△9%	△7%	△3%	△4%	△4%

次に、「キヤノン製品他」です。

「オフィスMFP」から「レーザープリンターカートリッジ」と「レンズ交換式カメラ」から「インクジェットプリンターカートリッジ」までの1Qの実績については、セグメント情報でお伝えしている通りであり、2026年の年間計画については、前回公表値から変更ございません。

1Qのグループ全体の「商業印刷」は、プロフェッショナルセグメントのプロダクションプリンティングの売上が増加したことや、エリアセグメントにおいて高速カット紙プリンターが好調に推移したこと等により、対前年5%増となりました。2026年の年間計画については、前回公表値から変更ございません。

財務指標推移 配当性向／EPS／配当



最後に、株式分割および配当についてです。

4月1日を基準日として、分割比率1:2の株式分割を行いました。
今後も、投資家の皆さまにとってより投資しやすい環境を整えてまいります。

2026年の年間配当予想については「1株当たり90円」としており、前回公表値から変更ございません。

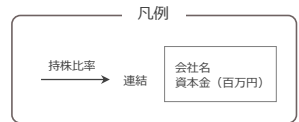
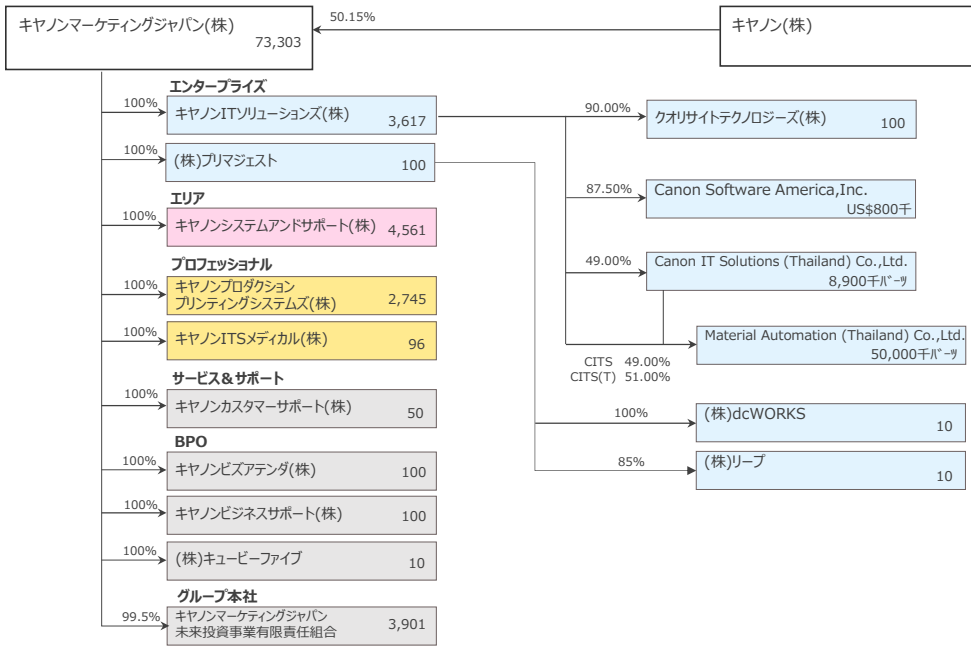
Canon

キヤノンマーケティングジャパングループ

本日のご説明は以上となります。
ありがとうございました。

參考資料

関係会社出資関係図



2026.3.31 現在

販管費の内訳 第1四半期(1月～3月)

(単位：億円)

	2025年 1Q	2026年 1Q	増減
広告宣伝費	11	10	△1
販売促進費	7	5	△1
保証費	7	7	△0
その他直接費	47	47	+0
人件費	223	210	△13
拠点費用	20	20	△0
IT費用	25	25	△0
のれん等償却費	9	7	△2
その他販売費	36	38	+2
合計	385	369	△15

営業外収支の内訳

(単位：億円)

	2025年 1Q	2026年 1Q	増減
受取利息	1	1	+0
受取配当金	0	0	△0
その他	1	1	△0
営業外収益 計	2	2	△0
支払利息	0	0	+0
投資事業組合管理費用	1	1	△0
投資事業組合運用損	0	0	+0
為替差損	1	0	△0
その他	1	0	△0
営業外費用 計	2	2	△0

特別損益の内訳

(単位：億円)

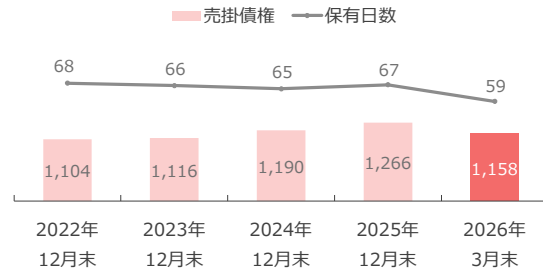
	2025年 1Q	2026年 1Q	増減
固定資産売却益	-	0	+0
投資有価証券売却益	1	5	+4
特別利益 計	1	5	+4
固定資産除売却損	0	0	+0
減損損失	3	-	△3
投資有価証券売却損	0	-	△0
その他	0	-	△0
特別損失 計	3	0	△3

貸借対照表

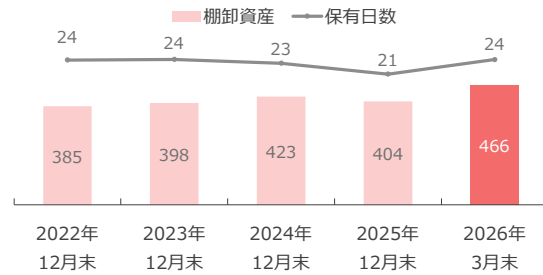
	2025年 12月末	2026年 3月末	増減
資産	5,644	5,463	△182
流動資産	3,396	3,216	△181
金融資産	1,601	1,313	△287
売掛債権	1,266	1,158	△109
棚卸資産	404	466	+62
その他	126	279	+153
固定資産	2,248	2,247	△1
有形固定資産	868	868	+0
無形固定資産	520	516	△3
投資その他	860	862	+2
負債	1,506	1,493	△13
流動負債	1,251	1,264	+13
買掛債務	521	593	+72
その他	730	670	△59
固定負債	255	230	△26
純資産	4,138	3,969	△169
株主資本	3,617	3,492	△125
(自己株式)	△204	△350	△146
その他の包括利益累計額	511	471	△40
新株予約権	1	1	+0
非支配株主持分	9	6	△4
株主資本比率	73%	73%	△1%

■ 売掛債権

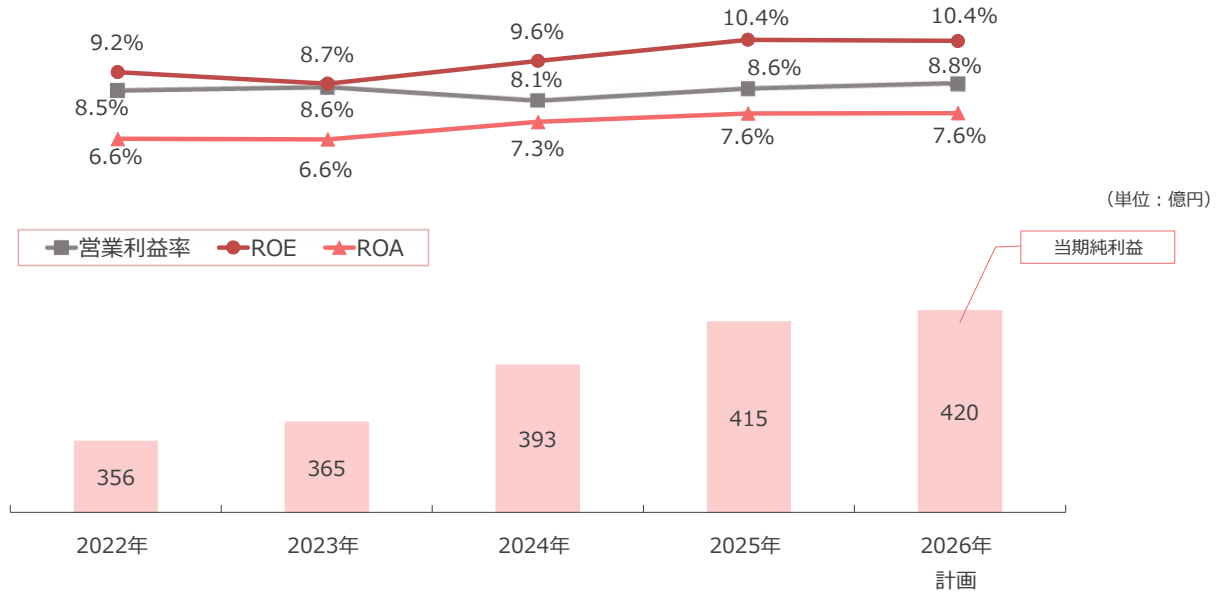
(単位：億円)



■ 棚卸資産

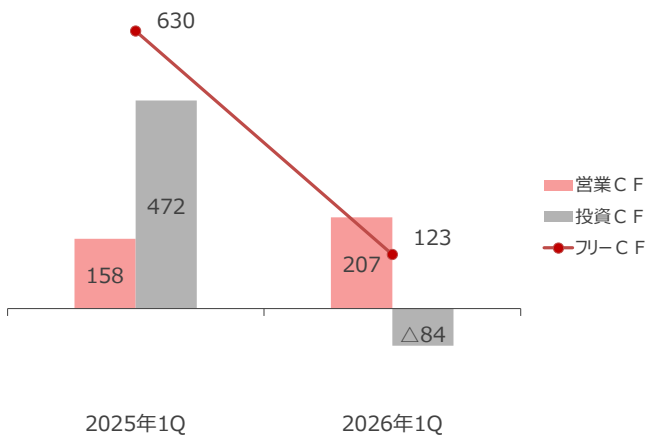


財務指標推移 営業利益率／ROA／ROE



キャッシュ・フロー／設備投資／減価償却

■ キャッシュ・フロー



■ 設備投資

(単位：億円)

	1Q 実績	2Q-4Q 計画	年間
2025年 実績	30	149	179
2026年 計画	39	216	255

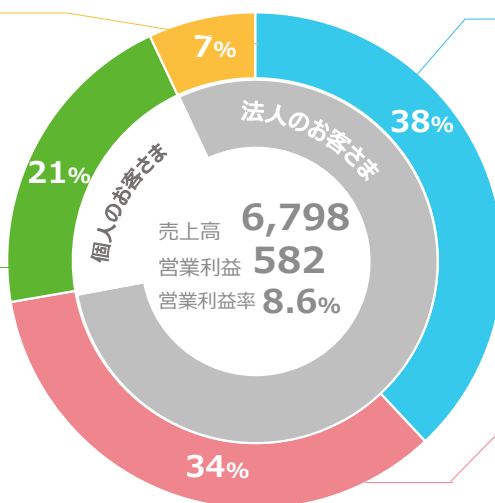
■ 減価償却

	1Q 実績	2Q-4Q 計画	年間
2025年 実績	28	94	121
2026年 計画	32	96	128

セグメント別売上構成（2025年度）

4 プロフェッショナル
 専門領域のお客さま
 プロダクションプリンティング / 産業機器 / ヘルスケア

売上高	営業利益
488	55 (11.4%)



1 エンタープライズ
 大手、準大手・中堅企業のお客さま

売上高	営業利益
2,658	211 (7.9%)

3 コンシューマ
 個人のお客さま

売上高	営業利益
1,448	130 (9.0%)

2 エリア
 全国の中小企業のお客さま

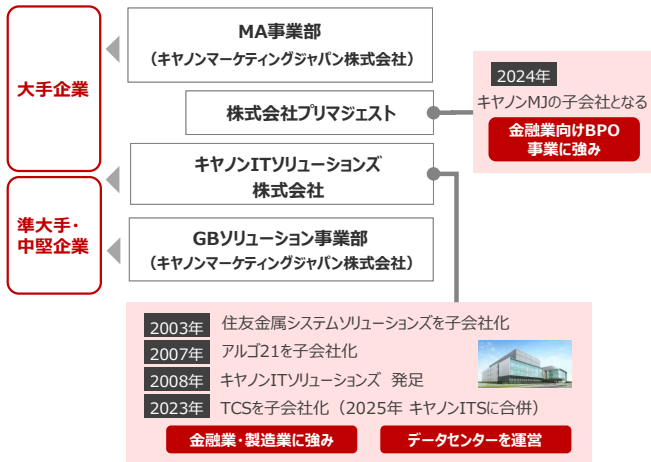
売上高	営業利益
2,403	223 (9.3%)

※上記以外に、セグメント間取引消去とシェアードサービス事業、各セグメントに配分していない全社費用等として、その他売上△198億円、その他営業利益△38億円があります。

セグメント別 事業概要

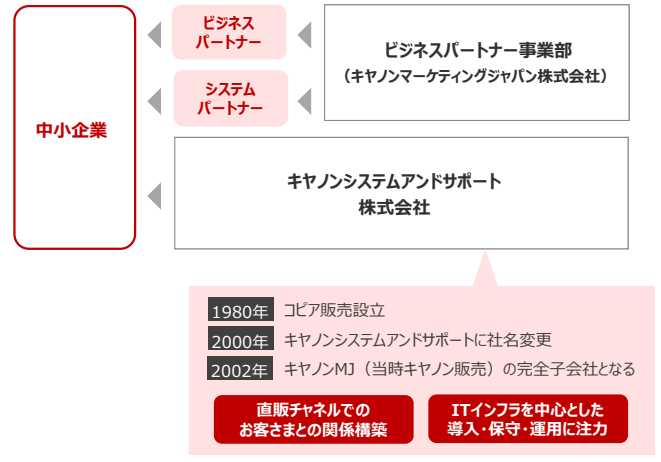
1 エンタープライズ

大手企業から準大手・中堅企業や官公庁、教育機関などの幅広いお客さま向けに、業種・業態ごとに異なる経営課題解決に寄与するキヤノン製品やITソリューション、BPO等を提供しています。



2 エリア

ビジネスパートナー、システムパートナーによる間接販売、キヤノンシステムアンドサポートによる直接販売からなる多様なチャネルを最大限に生かし、日本全国の中小企業のお客さま向けに、キヤノン製品やITソリューションを提供しています。



セグメント別 事業概要

3 コンシューマ

キヤノンの祖業であるカメラをはじめとするイメージング製品群・インクジェットプリンター等のキヤノン製品とキヤノンブランド以外のコンシューマユース向けプロダクトを、量販店やオンラインショップ等を通じて個人・法人のお客さまに販売しています。

カメラ事業



インクジェットプリンター事業



趣味、写真、在宅勤務

ITプロダクト事業



高性能PC

eスポーツ等に使用

4 プロフェッショナル

プロダクションプリンティング、産業機器、ヘルスケアといった、**各専門領域のお客さま**を対象とした製品やソリューションを提供しています。

産業機器

半導体製造関連



プラズマアッシング装置



外観検査装置

非半導体関連



X線分析装置



産業用3Dプリンター

プロダクションプリンティング

プロダクションプリンター



iX3200

MJP20JXR

カラーIJプリンター

モノクロIJプリンター

ソフトウェアサービス

ワークフローソリューション

Connect Works Manager

図面管理

POPシステム

ヘルスケア

電子カルテ

調剤システム



※主に海外から仕入れて日本国内のお客さまにローカライズして販売、設置・保守まで行う

社外からの評価・指数への選定（ESG等）

FTSE4Good Indexに
選定



FTSE4Good

FTSE JPX Blossom Japan
Indexに選定



FTSE JPX Blossom Japan
Sector Relative Indexに選定



Morningstar
日本株式ジェンダー・ダイバー
シティ・ティルト指数に選定
(GEグループ3)

JPX日経インデックス400に
選定



MSCI日本株ESGセレクト・
リーダーズ指数に選定

2025 CONSTITUENT MSCI日本株
ESGセレクト・リーダーズ指数

MSCI日本株
女性活躍指数に選定

2025 CONSTITUENT MSCI日本株
女性活躍指数 (WIN)

S&P/JPXカーボン・
エフィシエント指数に選定



SOMPOサステナビリティ・
インデックスに選定



Sompo Sustainability Index

(*) THE INCLUSION OF Canon Marketing Japan Inc. IN ANY MSCI INDEX, AND THE USE OF MSCI LOGOS, TRADEMARKS, SERVICE MARKS OR INDEX NAMES HEREIN, DO NOT CONSTITUTE A SPONSORSHIP, ENDORSEMENT OR PROMOTION OF Canon Marketing Japan Inc. BY MSCI OR ANY OF ITS AFFILIATES. THE MSCI INDEXES ARE THE EXCLUSIVE PROPERTY OF MSCI. MSCI AND THE MSCI INDEX NAMES AND LOGOS ARE TRADEMARKS OR SERVICE MARKS OF MSCI OR ITS AFFILIATES.

健康経営優良法人



2026
健康経営優良法人
KENKO Investment for Health
大塚製薬大塚薬
ホワイト500

えるぼし認定（2つ星）



グッドキャリア企業アワード2024
「大賞」受賞



GOOD CAREER COMPANY
AWARD 2024
大賞

プラチナくるみん認定



「DX検定™」シリーズにおいて
IFSJ イノベーションアワード
「企業優秀賞」「優秀賞」を受賞



Canon

キヤノンマーケティングジャパングループ